

2010年12月議会 個人質問通告 我如古一郎
発言通告に従い個人質問を行います。

松枯れ対策について、所見を述べたいと思います。

松は、日本では長寿を表す縁起のよい木とされ、どこにでもある風景でした。誰でも、沖縄芝居の大宜味小太郎さんの、「丘の一本松」に郷愁をお感じになるとと思います。

年月をかけて立派な枝を広げ、村のシンボルにもなり、しめ縄をつけられて大切にされてきました。しかし、強い木の代表のような松も、助けようのない謎の病気にやられて、どんどん枯れています。

気がつけば、松の木は街なかに、それほど存在しない木になりつつあります。非常事態であります。

松くい虫は、森の中や市街地であろうと繁殖し、放置すればするほど深刻な被害を引き起こしており、日本全国で広がっています。

沖縄のやんばるの森が、茶色に染まるほど被害は急速に広がり、その対策は急務です。

問題なのは、その対策が林業対策のみで、都市部における景観に有益で地域の風景に溶け込んでいる松には、保護が一切行われないうことです。

緑が急速に失われ、潤いの少ない本市の景観にあって、数少ない松の大木は地域のシンボルとしても、守るべき対象として、行政が本腰を入れなければ、いつかは松くい虫の被害で失われていくでしょう。

それが残念でなりません。屋上緑化や壁面緑化も大事ですが、今生きている緑、木々を守ることは、もっと重要ではないでしょうか。

識名園の松、世界遺産首里城周辺の松、繁多川2丁目のウフガーにある大きな松、大石公園、末吉公園の松、繁多川公園、識名霊園に点在する松、小緑や他の地域にも貴重な松があることでしょう。

どれも地域の景観に有益な、風景を作り出しています。

お手元の資料のように、残念ながら、上間1丁目の旧部落の一番

奥にある松の3本のうち、一番枝振りの良い松が、枯れかかっています。

識名4丁目の水道局タンク前の松も2本のうち1本が枯れています。識名霊園のお墓の周辺は、いたるところで枯れています。

枯れて、そのまま放置されると、そこから新たな松くい虫が巣立ち、健康な松を食い荒らすというのが、松くい虫被害拡大の最大の特徴です。

民有地の私有財産をどうするかというところで、手をこまねいては、本市のみならず、沖縄から琉球松はなくなってしまいます。

本市には、景観に有益な松や大木を保護し、市民みんなで守り育てようという政策も対策も予算もありません。

そこで

1、市内の松枯れ対策について質問します。

本市の住環境を守り、潤いのある街づくりに欠かせない木々を守ることが重要であると思う立場から、以下質問致します。

- (1) 識名園の駐車場の松はなぜ枯れたのか。仮に園内の松が枯れると世界遺産としてどのような影響があるか。
- (2) 市内で、地域に親しまれている松の大木は、何本あるのか。市として松枯れの現状をどう認識しているのか。
- (3) 松くい虫対策は、環境部や経済観光部の商工農水課と建設管理部の公園管理室・道路管理室や教育委員会を網羅した横断的な対策チームを立ち上げ、市が積極的に対策をすべきです。対応と見解を問うものです。

次に

2、都市計画行政について質問します

- (1) 繁多川1丁目の森永乳業跡地の裏手は一方通行の狭い道で住宅密集地であるが、消防車が進入できるのでしょうか。過去に火事等の災害はなかったのか。伺います。

- (2) 更地になったこの森永乳業跡地に、道を1本通すことが防災上必要ではないかと考えます。またそのような措置が可能なのか。見解を問うものです

次に、

3、 都市型水害対策について質問します。

近年、ゲリラ豪雨という言葉が生まれました。局地的な大雨による雨水が直接排水溝や排水路に流れ込み、低地帯で浸水被害が発生する、都市型水害が広がっています。

局地的な豪雨にも対応できる、安心な街づくりが求められていますが、本市にもその対策が必要です。以下質問します。

- (1) 本市の浸水常襲地域は何箇所か。この5年でどのような被害が発生しているか。
- (2) 雨水地下浸透枡と雨水小型貯留施設を補助しているが、その意義と実績を問うものです。

最後に

4、 道路行政について質問します。

新しく開通した、真地久茂地線の識名トンネルの完成に伴い、那覇市道（識名東線）が分断され、横断ができなくなっています。地域の皆さんから、不便になったと苦情があり、信号機を付けて安全に横断できるようにしてもらいたいとの要望があがっています。対応と見解を問うものです。

残り時間は自席にて行います。

再質問

松枯れ対策について

松枯れは、正式には、マツノザイセンチュウという1ミリにも満たない、線虫が健康な松の内部を食い荒らす現象です。では何故、カミキリムシかという、その線虫をマツノマダラカミキリが体につけて運んでいる、共生の関係にあるからです。

枯れた松はカミキリムシの格好の産卵場であり、枯れた松にはザイ線虫がいて、健康な松の枝を食べるカミキリムシの成虫によって「マツノザイ線虫」も運ばれるわけです。実に良くできた共生関係であります。

市長に伺います。 今回の提案に当たり、環境部・建設管理部・経済観光部・都市計画部の4部長と意見交換をさせていただきました。

環境部長の全庁的な対策チームを立ち上げたい、との答弁を高く評価するものでありますが、松くい虫は待つてはくれません。松の被害は広がる一方です。

上間1丁目の松は、去年まで青々としていました。いま生きている松を1本も枯らさない決意が必要です。

カミキリ虫の成虫が活発に動く6月から8月の対策に焦点を合わせる必要があります。また、現在枯れている松を切り倒して処分しなくてははいけません。

環境部・建設管理部・教育委員会・経済観光部・都市計画部など全庁的な取り組みには、市長がリーダーシップを発揮していただくことが重要だと思います。

ぜひ、早急な対策会議の立ち上げと、予算を確保していくことが重要です。お考えを聞かせてください。

市長、ありがとうございます。是非有効な対策をお願いすると共に、広域対策・他市町村との連携もお願い致します。

再質問

都市型水害対策について、再質問します。

1回目 環境部長

環境部が行っている、雨水浸透枡や小型貯留施設の補助事業を、浸水常襲地域を重点的に実施することはできないのか、伺います。

2回目 上下水道部長に質問します。

環境部の事業では、雨水の有効活用という観点での事業であり、水害対策としては不十分であると、わかりました。

ガープ川のような水難事故も発生し、局地的なゲリラ豪雨や集中豪雨などに対応できる対策、街づくりが必要になっています。

水害対策・浸水対策として、雨水地下浸透枡や雨水小型貯留施設の設置を推進する考えはないのか、伺います。

3回目、部長の全庁的な取り組みで推進したいとの答弁、高く評価したいと思います。ありがとうございます。ぜひ、水害に強い街づくりへ、大きな一歩を踏み出していただきたいと思います。

そこで、このような取り組みを全国で先駆けて実施している、千葉県市川市の取り組みを少し、紹介したいと思います。

市川市は、平成17年に「あま水条例」を制定し、市を上げて雨水の有効利用と雨水の流出抑制を行っています。10月の厚生経済委員会で視察をしてまいりました。

あま水条例の理念は、「台風や集中豪雨などの、短時間のうちに大量の雨水が流出し、低い土地に集まるという都市型の水害を軽減するために、市民の宅地に降った雨は、宅地内で貯留や浸透をさせ、下流に流さないことが有効であるとし、また水資源として雨水の有効利用という推進も合わせて求められる」と位置づけ、市民との協同で設置費用の半額を助成もしています。

また公共施設では必ず、雨水タンクを設置しています。参考にさせていただきたいと思います。

3つ目の重要な観点は、雨水を地下に浸透させることで、地下水、湧き水の枯渇を防止する事になり、良好な生活環境の創出や自然の水循環を再生する事につながることです。

要望

都市計画 森永乳業跡地

答弁にあったように、裏手の一方通行の道路は、ポンプ車がやっと通れる道路です。自家用車が万が一駐車されていると、まったく通行できません。

現在、認可保育園が新たに建設される地域でもあります。大きな火災になると、対応が不安な地域であるだけに、森永乳業が更地になって、繁多川1丁目の住宅密集地に向けて、防災対策として道路を通すことが、将来にとって重要だと考えました。

マンション建設が進んでいるのであれば、今後どうするのか、あらゆる可能性・対策を検討されることを要望いたします。

要望

トンネルができて渋滞緩和は大いに結構ですが、地元住民の生活に支障がでていることを、県警に伝えていただきたいと思います。

バイパスを横断させないために、近くの識名ガーデンハイツの住宅街が迂回路にされてしまい、交通量が大幅に増えて事故が起きています。また、通学のために無理やり横断する高校生もおり、人身事故の危険性も増大しています。

県警の考え方は、あまりにも自動車優先であります。当初は信号機設置をする設計もなされており、横断歩道と共に早急な設置を要望いたします。